

令和3年10月4日  
教育長答弁実録  
(教育委員会)

(問) 広島県の教員配置の現状と課題認識について

本県の公立小中学校等の教員定数に占める正規教員及び臨時的任用職員の割合が全国最下位であることについて、どのように考えているのか、教育長の所見を伺う。

また、先生が児童生徒一人一人と向き合う時間を確保するためには、正規教員を増やすことが効果的と考えるが、県の指導的立場から、県内の公立小中学校の教育現場の実態をどのように認識し、加配等を含めた体制拡充に向けてどのように取り組んでいくのか、併せて教育長の所見を伺う。

(答)

文部科学省の調査では、令和2年度に、広島県が国から措置された定数に対して、常勤の教員が占める割合は97パーセントとなっており、他の都道府県と比較して最も低い数値となっております。

これは、本県におきましては、教職員定数の有効活用策として、常勤の定数の一部を非常勤の講師に振り替えて活用することで、

- ・ 特別支援学級において複数の教員を配置して指導することや、
- ・ 日本語指導を必要とする児童生徒に対して、別教室で個別の指導を行うことなど、

個に応じたきめ細かい指導の充実に取り組んでいるためでございます。

県教育委員会といたしましては、こうした教職員定数の有効活用策を継続していきたいと考えており、正規教員の配置につながるよう、県内小中学校の体制の更なる充実に向けて、市町教育委員会の意向を把握しながら、国へ要望を行い、必要な加配の措置に取り組んでまいります。

また、安定した学校運営を行うためには、できる限り正規の教員を配置することが望ましいと考えていることから、教員の中長期採用計画に基づいて、定数内臨採を段階的に縮小することとしており、教職課程設置大学との連携などにより、必要な人員の確保に努めてまいります。